

2024 年度保健医療学部在学生調査

調査報告書

(2025 年 3 月)

札幌医科大学医療人育成センター・統合 IR 部門

目次

I.	概要	2
II.	目的	3
III.	方法	4
IV.	調査結果	4
1.	回答状況	5
2.	基本属性	4
3.	生活状況	5
4.	学業の成果：卒業時まで身に付けたい能力の獲得状況（DPの評価）	6
5.	悩みや不安	7
6.	経済状況	7
7.	支援制度	8
V.	図表	9
VI.	資料	26
1.	依頼文書	26
2.	調査票	27

I. 概要

<目的>

保健医療学部 1-4 年生を対象に、ディプロマ・ポリシー（以下、「DP」とする）の到達度、学生生活（居住環境、経済状況、課外活動、心理状況、健康問題等）の実態、学部の支援体制の有用性を把握することを目的に実施した。

<方法>

調査票を用いた集合調査（看護学科3年生はインターネット調査）により行った。調査時期は2024年7月～2024年8月である。基本的属性、生活状況、学業の成果（DPの評価）、悩みや不安、経済状況、支援制度について調査した。

<結果>

回収率：92.2%（332名回収/360名配付）だった(表1)。昨年度（2023年度）よりインターネット調査から集合調査に戻した結果、高い回収率を維持できている。

基本属性：居住形態については自宅が62.3%、下宿/アパートが37.7%であった(図1)。通学時間は片道15分未満（33.4%）の学生が最も多く、1時間以上の者も約2割いた(図2)。サークル・部活動は、何らかの活動をしている学生が76.2%だった(図3)。加入率は2016年（88.3%）と比較すると依然低いが、1年生の加入率が高く（94.4%）、Covid-19の影響が小さくなりつつあると考えられる(表5)。部活動・サークル活動で得たことはコミュニケーション能力が76.6%と最も多く、次いで人格形成・忍耐力・責任感が59.9%であった(図5)。

生活状況：平日の平均睡眠時間は、5～7時間が全体の75.9%を占めていた(図6)。過去の調査と比較すると、5時間未満と回答する学生の割合(13.6%)が増加していた(表8)。食事の頻度については、各学科とも三食きちんと食べている者が65.1%だった(図7)。アルバイトの時間は、1週間あたり10時間以上が最も多く（59.0%）、アルバイトをしていない学生は11.4%だった(図8)。アルバイトで得たことについては、社会人としての基礎力が81%、コミュニケーション能力が74.5%、人格形成・忍耐力・責任感が72.8%、問題適応能力が57.8%だった。YouTube、X、Instagram等の閲覧に費やした時間は、1日に1時間～3時間と回答した学生が最も多かった（57.1%）。5時間以上の者もいたが（6.9%）、2021年（15.4%）よりもその割合は低い(図11)。読書に費やした時間は、読書していないとの回答が65.9%を占めていた(図12)。ボランティア活動は15.4%の学生が行っており(図13)、過去の調査よりも活動している学生が多くなっていた(表15)。

学業の成果（DPの評価）：「建学の精神を実現するための基盤となる能力」は、「人々の違いを個性として受け止め、他者を尊重する態度を身につけている」について肯定的な回答が94.6%と最も多く、次いで「他者と積極的にコミュニケーションをとり、良好な対人関係を築くことができる」が84.9%であった(図15)。学年別にみると、4年生の平均点が全般的に低かった(表17)。「保健・医療・福祉の実践を担う専門職、専門分野の発展に寄与する能力」では、「自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている」の平均点が最も高く(図16)、1年次から肯定的な回答が多かった(表18)。

悩みや不安：現在の悩みや不安はない、と回答した学生が47.0%であった(図17)。悩みや不安の内容は、進路と回答した学生は54.0%、学業は48.9%、対人関係は36.8%だった(図18)。学年別に見ると、1年生は学業（59.6%）、2年生は対人関係（51.4%）、3年生は進路（78.6%）、4年生は進路と学業（いずれも56.0%）が最も多く、学年進行にしたがって悩みや不安が変化していた(表20)。悩みや不安への対処については、できていると回答した学生は64.3%であった(図19)。現在の悩みや不安の相談相手については、家族・友人と回答した学生が93.2%だった(図20)。

経済状況：授業料、生活費の支弁者は、88.5%が親・親族であり、自分自身（奨学金を含む）が8.8%

だった(図 21)。奨学金は 33.7%の学生が受給していた(図 22)。学業を続けていく上での経済的な不安がない学生が 82.2%であった(図 23)。

支援制度：学生担当教員制度について、「よく知っている」と回答した学生は 67.8%だった(図 24)。学年が上がるにつれ制度の認知度は概ね上昇していた(表 26)。保健管理センターは、97.0%の学生が「よく知っている」あるいは「聞いたことがある」と回答した(図 25)。一方で、ハラスメント相談窓口は 31.9%の学生が認知していなかったが(図 26)、以前よりも認知度はやや上昇している(表 28)。今後学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容としては、進路(49.2%)、国家試験対策(48.6%)、就職(45.6%)が多く、学年によって希望する支援内容は異なっていた(表 29)。

<考察>

調査方法については、集合調査が有効であることが確認できたため、回収率とコスト(時間・費用)等を考慮した最適な調査方法について、継続して検討する必要があると考えられる。

前回調査との比較で、学生の生活状況に大きな変化は認められないが、昨年度と比較すると部活動・サークル活動の加入率が増加しており、とくに 1 年生の加入率が高いことから、Covid-19 が落ち着き、通常の学生生活を取り戻しつつあると考えられる。また、1 日のインターネット利用時間も、コロナ禍(2021 年調査)に比較すると短くなっており、生活環境の変化がうかがわれる。ボランティア活動をする者の割合も増えている。

DP の評価については、コミュニケーション能力や対象者と適切に関わることができる能力の自己評価が高い。「自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている」という評価については、1 年次より肯定的な回答が多く、学習意欲の高い学生が入学していることや、入学後に主体的な学修姿勢を育む機会が充分にあることに関連していると考えられる。

学生担当教員制度と保健管理センターの認知度は高く、とくに保健管理センターは学生にとって身近な存在として定着していることが推察される。ハラスメント相談窓口については、より認知を広げるための方策を検討する必要がある。

悩みや不安と支援制度への希望は、学業、進路、人間関係等が挙げられるが、学年によってその内容は異なるため、支援を担当する組織・委員会において、細やかな対応が求められる。

II. 目的

本調査は保健医療学部1-4年生を対象に、DPの到達度、学生生活（居住環境、経済状況、課外活動、心理状況、健康問題等）の実態、学部の支援体制の有用性を把握し、今後の学生の大学生活をより豊かなものとする学生の支援体制を構築するために、またカリキュラム評価に用いる資料を得ることを目的とする。なお、学生生活については2004年（平成16年）から2021年（令和3年）まで、教務委員会によって「学生生活基礎調査」として5回実施されており、管轄が統合IR部門に移されてからは2回目の調査となる。過去の調査と同じ項目で測定・評価されている内容については、それらとの比較により学生生活の変化についても検討を行う。

III. 方法

1. 調査方法

保健医療学部 に在籍する1-4年生332名を対象に、調査票を用いた集合調査により行った。Qookerを用いたインターネット調査により回答を得た。調査時期は2024年（令和6年）7月～2024年（令和6年）8月である。

2. 調査内容

基本的属性、生活状況、学業の成果（DPの評価）、悩みや不安、経済状況、支援制度について調査した。学生の生活実態は、過去の学生生活基礎調査で行った項目をもとに、医学部と比較が可能な調査内容とした。

3. 倫理的配慮

調査の実施において、下記の点に留意し、学生には依頼文書を用いて周知し、調査の協力を依頼した。

- 1)調査協力への同意：本調査への回答をもって、調査への同意と見なす。
- 2)同意しない場合の不利益：調査協力は任意であり、協力しなくても不利益はない。
- 3)プライバシー保護：入学時に継続的教学情報収集の同意を得ているため、記名式で調査を行った（他の情報と連結して統計的分析を行う可能性がある）。ただし、4年生は入学時に同意を得ていないため、調査は無記名で行った。データは統計学的に処理され、結果の公表において個人が特定されることはない。
- 4)回答は統合IR部門が管理するインターネットに接続しないPCまたはハードディスクに保管され、厳重に管理する。
- 5)調査の結果は、拡大学科長会議で報告されるほかに、全学のデータブック2024に収録され、公表される。
- 6)予期される危険と費用負担：回答には15分程度の時間と作業を要する。費用負担はない。

4. 分析

各項目について度数分布、学科別集計、学年別集計を行った。過去に行われた学生生活基礎調査と調査項目及び選択肢が同一または類似している場合は、経時的变化を考察した。なお、DPの評価については、昨年度行われた卒業生調査、雇用者調査とも比較が可能な（旧DPの評価と内容が同じである）項目についてのみ比較検討を行う。

IV. 調査結果

1. 回答状況

回収率は 92.2% (332 名回収/360 名配付) だった(表 1)。学科別では、作業療法学科 (98.8%)、理学療法学科 (95.1%)、看護学科 (88.4%) の順で高かった。学年別では 2 年生が低く (82.2%)、1 年生 (98.9%) と 4 年生 (97.8%) が高くなっていた (表 2)。第 5 回調査 (2021 年) においてインターネット調査を導入したことにより大幅な回収率の低下がみられたため、第 6 回調査 (2023 年) から調査票を用いた集合調査に戻したが、高い回収率が得られた。回収率とコスト等を考慮した最適な調査方法について継続して検討する必要がある。

2. 基本属性

基本属性として「居住形態」「通学時間」「加入しているサークル・部活動」「部活動・サークル活動への参加頻度」「部活動・サークル活動で得たこと」について調査を行った。

「居住形態」については『自宅』が 62.3%、『下宿/アパート』が 37.7%であった(図 1)。学科別にみると作業療法学科、学年別にみると 4 年生が他と比較して『自宅』の割合が少なかった(表 3)。

「通学時間」は片道『15 分未満』(33.4%)、『30 分から 1 時間未満』(28.6%)が多く、『1 時間以上』も約 2 割いた(図 2)。2023 年度より『30 分から 1 時間未満』が減少していた (表 4)。

「加入しているサークル・部活動 (複数回答)」は『運動系』が約 6 割と最も多く、何らかの活動をしている学生は 8 割弱であった(図 3)。学年別にみると、1 年生が 94.4%と最も多く加入しており、次いで 2 年生が 79.7%であった(表 5)。2023 年度との比較では加入率が増加しており、Covid-19 が落ち着いてきたことの影響があったものと考えられる(表 5)。

「部活動・サークル活動への参加頻度」は『週 1 回』(33.7%)が最も多く、次いで『週 2 回』と『週 3 回』(いずれも 30.5%)が多かった(図 4)。学年が上がるにつれて、参加頻度が低下する傾向にあった。2023 年度との比較では、参加頻度が『週 2 回』より多い者が増加していた (表 6)。

「部活動・サークル活動で得たこと」は『コミュニケーション能力』が約 8 割と最も多く、次いで『人格形成、忍耐力・責任感』が約 6 割であった(図 5)。医療従事者として欠かせない力を養う機会でもあると考えられる。また、2023 年度との比較では『授業では得られない知識・教養』が 1 割ほど増加していた (表 7)。

3. 生活状況

学生の生活状況を把握するために、「平日の平均睡眠時間」「食事の頻度」「アルバイトの時間」「アルバイトで得たこと」「PC・スマホ・タブレット等で他者とのコミュニケーションに費やした時間」「YouTube、X (旧 Twitter)、Instagram 等の閲覧に費やした時間」「読書に費やした時間」「ボランティア活動」「友人の人数」に関して調査を行った。

「平日の平均睡眠時間」は、『5~6 時間』(39.2%)、『6~7 時間』(36.7%)が多かった(図 6)。学科別では看護学科において『5 時間未満』と『5~6 時間』が併せて 60.2%と睡眠時間が短く (表 8)、この傾向は 3 年生において強く認められた (72.5% : 未公開データ)。学年別では、1 年生が他学年に比べて『5 時間未満』の割合が多かった (表 8)。過年度調査との比較では、昨年度調査 (2023 年度) と同様に、『5~6 時間』が最も多かった。一方で、2016 年度からの調査を比較すると、『5 時間未満』と回答する学生の割合が年ごとに増加していた。これは、学生のライフスタイルの変化が反映されたものと考えられるが、慢性的な睡眠不足が学力のみならず精神衛生を含めた心身へ与える影響も大きいことから、原因の解明とともに引き続き経過を観察する必要がある。

「食事の頻度」については、各学科とも『三食きちんと食べている』が過半数を占めていた(図 7)。「三食きちんと食べている」と回答した学生は、看護学科で68.8%と他学科よりも多く、学年別では1年生で80.9%と他学年よりも多い結果であった(表 9)。

「アルバイトの時間」は1週間あたり『10 時間以上』が最も多く(59.0%)、『していない』『3 時間未満』と回答した学生は、全体の約1割であった(図 8)。学年別では、3年生で『10 時間以上』が7割を超え、2・4年生で『3 時間以上-10 時間未満』『10 時間以上』が合わせて8割を超えていた(表 10)。「していない」と回答した割合は年度により増減があり、学生の経済状況の変化や Covid-19 の影響があったものと考えられる。

「アルバイトで得たこと」については、『社会人としての基礎力』と回答した学生が81.0%、『コミュニケーション能力』『人格形成、忍耐力、責任感』と回答した学生がそれぞれ74.5%、72.8%、『問題対応能力』『授業では得られない知識・教養』とした学生がそれぞれ57.8%、52.0%であった(図 9)。学科別では、看護学科と理学療法学科で『社会人としての基礎力』とした学生が8割程度と最も多く、作業療法学科では『人格形成、忍耐力・責任感』とした学生が7割以上であった(表 11)。学年別では、4年生で『社会人としての基礎力』『コミュニケーション能力』とした学生が8割弱を占めていた。「アルバイトで得たこと」については、今後の社会生活において必要とされる能力や知識が大多数を占めていたことから、大学生活において、経済的理由によるアルバイト活動に加えて、大学内では学ぶことの出来ない一般的な教養を身につける場としても活用されていることが窺える。

「PC・スマホ・タブレット等で他者とのコミュニケーションに費やした時間」は、1日あたり『30分～2時間』とした学生が45.2%と最も多く、次いで『2時間以上』が32.8%、『30分未満』が22.0%で、使用していない学生はいなかった(図 10)。学科別においては同様の結果であった。学年別では、3年生で『2時間以上』と回答した割合が38.8%とやや多くなっていた(表 12)。

「YouTube、X(旧 Twitter)、Instagram等の閲覧に費やした時間」について、『1時間～3時間』と回答した学生が57.1%と最も多く、『3時間～5時間』『5時間以上』は合わせて3割以上を占めていた(図 11)。学年別では、『5時間以上』と回答した学生は2年生で10%以上であったのに対し、他の学年では1割未満であった(表 12)。

2021年度調査では、1日のインターネット利用時間が『5時間以上』と回答した学生が15.4%であったのに対して、2023年度に引き続き今年度も6.9%でありおよそ半減していた。新型コロナウイルス対策による行動制限解除に伴い、生活環境がコロナ禍以前に戻っていることが要因の一つと推察される。

「読書に費やした時間」は『していない』が最も多く(65.9%)、『30分未満』が23.3%、残りの2割が『30分～2時間』『2時間以上』であった(図 12, 表 14)。

「ボランティア活動」については、全体の84.6%が『していない』と回答した(図 13)。学科別では作業療法学科で20.3%とやや多くなっていた(表 15)。年度別では、直近2年間においてボランティア活動を行う学生が増えている傾向にある。

「友人の人数」については『まあまあいる』が66.9%と最も多かった(図 14)。学年別では3・4年生で『ほとんどいない』と回答した学生が数名おり、1・2年生より少ない傾向が見られた(表 16)。2013年度から今回までの過去5回の調査では、『まあまあいる』が半数以上を占めており、同様の傾向が続いている(表 16)。

4. 学業の成果：卒業時まで身に付けたい能力の獲得状況(DPの評価)

学業の成果を把握するために、卒業までに身に付けたい能力である「建学の精神を実現するための

基盤となる能力」「保健・医療・福祉の実践を担う専門職、専門分野の発展に寄与する能力」に関して調査を行った。

「建学の精神を実現するための基盤となる能力」は、「(3)人々の違いを個性として受け止め、他者を尊重する態度を身につけている」について『そうである/まあそうである』の回答が 94.6%で最も多く、次いで「(4)他者と積極的にコミュニケーションをとり、良好な対人関係を築くことができる」が 84.9%だった(図 15)。『そうである/まあそうである』の割合が最も低かったのは、「保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見を持っている」(53.0%)であった。学科別の平均点に大きな違いはみられなかったが、ほとんどの項目において 4 年生の平均点が他の学年に比べて低くなっていた(表 17)。

他者の尊重、コミュニケーションや対人関係の構築については、授業や演習で基本を学び、実習等での対象者への援助、さらに部活動・サークルおよびアルバイトの経験等から獲得されてきたものと推察される。一方、保健医療福祉システム全般の理解、システム促進に向けた思考は難易度が高く、学修の機会を重ね広い視野を持つことで能力の獲得が促進されると考える。卒業を目前に控えた 4 年生の平均点が他項目と比較して低いことから、意図的な教授が必要であるといえる。

「保健・医療・福祉の実践を担う専門職、専門分野の発展に寄与する能力」は、「(3)対象者の健康課題に対して、科学的な思考に基づき問題を解決することができる」を除くすべての項目で『そうである/まあそうである』(59.6%)の回答が 6~8 割であった(図 16)。科学的な思考に基づき問題解決する能力を高めるための教授内容の方法・内容の検討が必要と考えられる。肯定的な回答が最も多かったのは「自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている」(89.1%)であった。この項目は 1 年次から肯定的な回答が多く、学習意欲の高い学生が入学していることや、入学後に主体的な学修姿勢を育む機会が充分にあることが考えられる(表 18)。

5. 悩みや不安

学生生活における悩みや不安を把握するために、「現在の悩みや不安」「悩みや不安の内容」「悩みや不安への対処」「悩みや不安の相談相手」に関して調査を行った。

「現在の悩みや不安」の有無について、『たくさんある』と回答した学生は 5.1%であった(図 17)。『まあまあある』『少しはある』と回答した学生と併せると 53.0%であった。学科別にみると、作業療法学科は『たくさんある』と回答した学生が他学科よりも多かった(8.9%)(表 19)。学年別では『たくさんある』『まあまあある』『少しはある』を併せた回答が 4 年生で最も多く(56.2%)、1 年生(53.9%)、3 年生(52.5%)、2 年生(48.7%)の順に多かった。以前の調査および前回調査の結果(65.7%)と比較すると悩みや不安があるとする回答は年々減っている。

「悩みや不安の内容」については、『進路』と回答した学生は 54.0%、『学業』と回答した学生は 48.9%、『対人関係(家族/友人/異性)』と回答した学生は 36.8%、『経済状況』と回答した学生は 20.7%であった(図 18)。学年別に見ると、1 年生は『学業』(59.6%)、2 年生は対人関係(51.4%)、3 年生は『進路』(78.6%)、4 年生は『進路』と『学業』が同率(56.0%)で悩みとして多く回答していた(表 20)。学年進行によって学生が抱える悩みは変化するため、状況に応じた対応が求められる。

「悩みや不安への対処」については、『ほとんどできている』『まあまあできている』と回答した学生は 64.3%で、『まあまあできている』と回答した学生が最も多かった(56.3%)(図 19)。学年別に見ると、4 年生において悩みや不安への対処について、『ほとんどできている』『まあまあできている』の回答が他の学年より多くなっていた(74.0%)(表 21)。

「現在の悩みや不安の相談相手」については、『家族・友人』と回答した学生が 93.2%と最も多く、『学担・副学担』に相談すると回答した学生は 1 割強にとどまっていた(図 20)。しかし、3 年生は『学担・副学担』の回答が多く (23.8%)、4 年生は『学担・副学担以外の教員』(14.0%) も多く、状況に応じて相談相手を選択していることがわかる (表 22)。

6. 経済状況

学生の経済状況を把握するために、「授業料、生活費の支弁者」「奨学金の受給」「学業を続けていく上での経済的な不安」について調査を行った。

「授業料、生活費の支弁者」は、88.5%が『親・親族』であり、次いで『自分自身 (奨学金を含む)』が 8.8%、『全額免除されている』が 2.7%であった(図 21)。学科別、学年別、年度別に見たときの大きな違いは認められなかった(表 23)。

「奨学金の受給」は、33.7%の学生が受給していた(図 22)。学科別では理学療法学科で 19.5%とやや少なくなっていた (表 24)。

「学業を続けていく上での経済的な不安」について、『ある』が 17.8%、『ない』が 82.2%であった(図 23)。学科別・学年・年度別の比較では顕著な差は認められなかった(表 25)。

7. 支援制度

大学の「支援制度」に関する学生の認知度および満足度を把握するために、「学生担当教員 (学担・副学担) 制度の認知」「保健管理センターの認知」「ハラスメント相談窓口の認知」「今後学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容」に関して調査を行った。

「学生担当教員 (学担・副学担) 制度の認知」について、『よく知っている』と回答した学生は全体で 67.8%であった(図 24)。学年別にみると、1 年生では『よく知っている』と回答した学生は 50.6%であったが、学年が進むにつれておおむね認知度が上昇していた (表 26)。「今後の学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容」(図 27)で挙げられている『進路』『就職』などのサポートにおいても、学生担当教員は重要な役割を担う存在であるが、その周知が課題として窺える。

「保健管理センターの認知」については、97.0%の学生が『よく知っている』あるいは『聞いたことがある』と回答した(図 25)。学年別では、1 年生において『よく知っている』の回答がやや少ない (41.6%) 傾向が見られた (表 27)。保健管理センターに保健師・看護師ならびに心理士が配置され、体調不良や怪我の時だけでなく、メンタルヘルスに関わる相談が可能になったことから、保健管理センターは学生にとって身近な存在として定着していることが推察される。

「ハラスメント相談窓口の認知」については、『よく知っている』あるいは『聞いたことがある』が 68.1%であり、約 3 分の 1 の学生は『知らない』と回答した(図 26)。2023 年度調査より『良く知っている』『聞いたことはある』と回答した学生の割合は微増し、ハラスメント相談窓口の認知が定着しつつある(表 28)。しかしながら、ハラスメント相談窓口の存在を『知らない』学生も一定数いることから、その役割や支援内容について学生に周知する方法を改めて検討する必要がある。

「今後学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容」としては、『進路』(49.2%)、『国家試験対策』(48.6%)、『就職』(45.6%) の順に多かった (図 27)。学担・副学担に加え、各学科教員や科目担当責任者が連携して、これらをサポートする体制の整備が重要となる。学年別に比較すると、『学習』は 1 年生 (42.7%)、『キャリア教育』は 3 年生 (38.8%)、『就職』が 3-4 年生 (57.5%, 51.1%) に多く、それぞれの学年で充実させてほしいと考える内容に違いがあり、学年にあわせた支援が望まれる。

V. 図表

1. 回収率

表 1. 回収率：学科別学年別

%（配布数/回収数）

学科	学年				
	全体	1年生	2年生	3年生	4年生
看護学科	88.4(176/199)	98.0(49/50)	78.0(39/50)	81.6(40/49)	96.0(48/50)
理学療法学科	95.1(77/81)	100.0(20/20)	80.0(16/20)	100.0(20/20)	100.0(21/21)
作業療法学科	98.8(79/80)	100.0(20/20)	95.0(19/20)	100.0(20/20)	100.0(20/20)
全体	92.2(332/360)	98.9(89/90)	82.2(74/90)	89.9(80/89)	97.8(89/91)

表 2. 回収率：年度別

調査年度	回収数	%
第 3 回 2013 年(N=358)	291	81.3
第 4 回 2016 年(N=352)	349	99.1
第 5 回 2021 年(N=362)	220	60.8
第 6 回 2023 年(N=271)	228	84.1
第 7 回 2024 年(N=360)	332	92.2

2. 基本属性と生活状況

1) 居住形態

図1.全体(2024年度,
n=332)

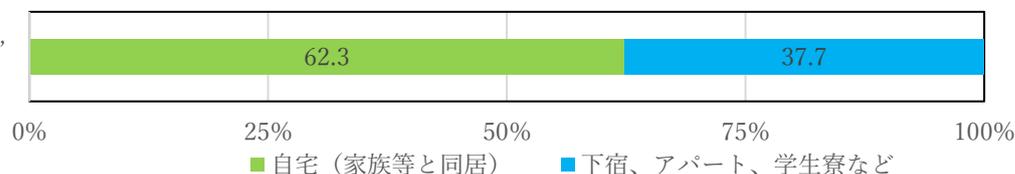


表 3. 居住形態：学科別・学年別・年度別

(%)

		自宅	下宿/アパート等	学生寮
学科別	看護学科(n=176)	65.3	34.7	
	理学療法学科(n=77)	62.3	37.7	
	作業療法学科(n=79)	55.7	44.3	
学年別	1年生(n=89)	67.4	32.6	—
	2年生(n=74)	63.5	36.5	
	3年生(n=80)	60.0	40.0	
	4年生(n=89)	58.4	41.6	
年度別	第 3 回 2013 年(n=291)	63.7	31.5	4.8
	第 4 回 2016 年(n=349)	63.0	30.9	6.0
	第 5 回 2021 年(n=220)	71.6	27.9	0.5
	第 6 回 2023 年(n=226)	63.6	36.4	-
	第 7 回 2024 年(n=332)	62.3	37.7	-

2) 通学時間（片道）



表 4. 通学時間：学科別・学年別・年度別 (%)

		15分未満	15-30分未満	30分-1時間未満	1時間以上
学科別	看護学科(n=176)	29.0	18.2	26.7	26.1
	理学療法学科(n=77)	35.1	10.4	35.1	19.5
	作業療法学科(n=79)	41.8	13.9	26.6	17.7
学年別	1年生(n=89)	28.1	14.6	28.1	29.2
	2年生(n=74)	39.2	10.8	27.0	23.0
	3年生(n=80)	35.0	15.0	32.5	17.5
	4年生(n=89)	32.6	20.2	27.0	20.2
年度別	第6回 2023年(n=226)	30.9	14.5	33.9	20.7
	第7回 2024年(n=332)	33.4	15.4	28.6	22.6

3) 加入している部活動・サークル（複数回答）

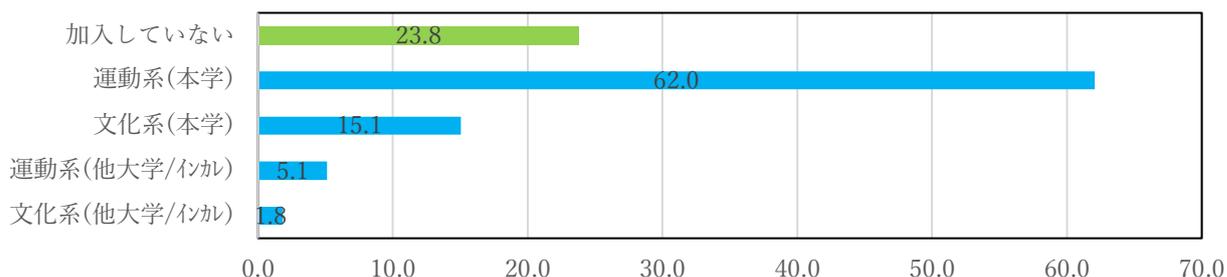


図3.全体における% (n=332)

表 5. 加入している部活動・サークル：学科別・学年別(複数回答) (%)

		加入していない	運動系(本学)	文化系(本学)	運動系(他大学/イカレ)	文化系(他大学/イカレ)
学科別	看護学科(n=176)	23.9	59.7	17.6	5.7	2.8
	理学療法学科(n=77)	23.4	71.4	7.8	1.3	0.0
	作業療法学科(n=79)	24.1	58.2	16.5	7.6	1.3
学年別	1年生(n=89)	5.6	84.3	16.9	1.1	1.1
	2年生(n=74)	20.3	63.5	23.0	5.4	2.7
	3年生(n=80)	26.3	55.0	15.0	7.5	2.5
	4年生(n=89)	42.7	44.9	6.7	6.7	1.1
年度別	第4回 2016年(n=349)	12.7	-	-	-	-
	第5回 2021年(n=220)	21.8	-	-	-	-
	第6回 2023年(n=226)	36.0	50.4	10.5	5.3	2.2
	第7回 2024年(n=332)	23.8	62.0	15.1	5.1	1.8

4) 部活動・サークル活動への参加頻度（1週あたり、加入者のみ）

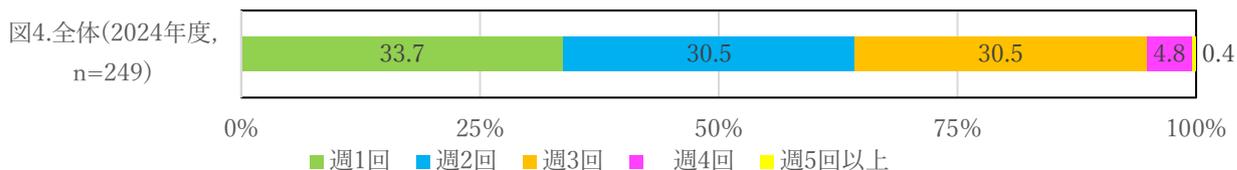


表 6. 部活動・サークル活動への参加頻度：学科別・学年別・年度別 (%)

		週1回	週2回	週3回	週4回	週5回以上
学科別	看護学科(n=131)	37.4	30.5	29.0	2.3	0.8
	理学療法学科(n=58)	25.9	29.3	29.3	15.5	0.0
	作業療法学科(n=60)	33.3	31.7	35.0	0.0	0.0
学年別	1年生(n=83)	21.7	34.9	34.9	7.2	1.2
	2年生(n=59)	30.5	32.2	35.6	1.7	0.0
	3年生(n=58)	32.8	29.3	29.3	8.6	0.0
	4年生(n=49)	59.2	22.4	18.4	0.0	0.0
年度別	第6回 2023年(n=146)	41.1	28.1	23.3	6.8	0.7
	第7回 2024年(n=249)	33.7	30.5	30.5	4.8	0.4

5) 部活動・サークル活動で得たこと（複数回答）（加入者のみ）

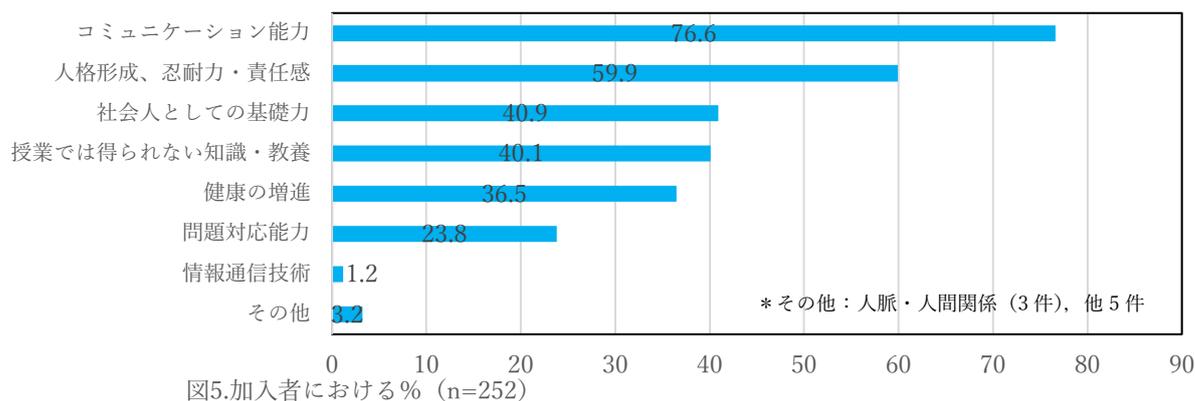


表 7. 部活動・サークル活動で得たこと：学科別・学年別 (%)

		コミュニケーション能力	人格形成、忍耐力・責任感	社会人としての基礎力	授業では得られない知識・教養	健康の増進	問題対応能力	情報通信技術	その他
学科別	看護学科(n=134)	82.1	61.9	43.3	41.8	26.9	23.1	1.5	2.2
	理学療法学科(n=59)	71.2	52.5	47.5	35.6	54.2	22.0	1.7	5.1
	作業療法学科(n=59)	69.5	62.7	28.8	40.7	40.7	27.1	0.0	3.4
学年別	1年生(n=84)	76.2	64.3	39.3	48.8	53.6	15.5	1.2	1.2
	2年生(n=58)	77.6	55.2	32.8	31.0	22.4	24.1	0.0	5.2
	3年生(n=59)	81.4	61.0	44.1	40.7	32.2	35.6	1.7	3.4
	4年生(n=51)	70.6	56.9	49.0	35.3	29.4	23.5	2.0	3.9
年度別	第6回 2023年(n=146)	74.0	52.1	35.6	28.8	32.9	26.0	4.1	3.4
	第7回 2024年(n=252)	76.6	59.9	40.9	40.1	36.5	23.8	1.2	3.2

6) 平日の平均睡眠時間

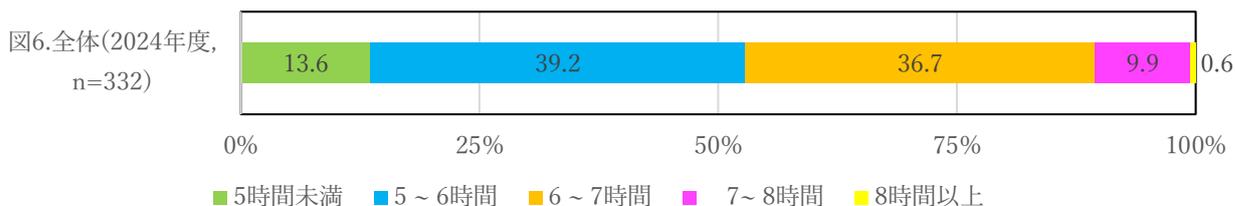


表 8. 平日の平均睡眠時間：学科別・学年別

(%)

		5 時間未満	5 ～ 6 時間	6 ～ 7 時間	7 ～ 8 時間	8 時間以上
学科別	看護学科(n=176)	17.0	43.2	32.4	7.4	0.0
	理学療法学科(n=77)	10.4	36.4	40.3	10.4	2.6
	作業療法学科(n=79)	8.9	32.9	43.0	15.2	0.0
学年別	1 年生(n=89)	18.0	32.6	42.7	6.7	0.0
	2 年生(n=74)	13.5	36.5	33.8	14.9	1.4
	3 年生(n=80)	15.0	41.3	32.5	11.3	0.0
	4 年生(n=89)	7.9	46.1	37.1	7.9	1.1
年度別	第 4 回 2016 年(n=349)	6.9	41.8	39.8	10.9	0.6
	第 5 回 2021 年(n=220)	8.3	35.0	41.0	13.4	2.3
	第 6 回 2023 年(n=224)	10.6	43.6	35.2	10.1	0.4
	第 7 回 2024 年(n=332)	13.6	39.2	36.7	9.9	0.6

7) 食事の頻度



表 9. 食事の頻度：学科別・学年別・年度別

(%)

		三食きちんと食べている	三食は食べないことが多い
学科別	看護学科(n=176)	68.8	31.3
	理学療法学科(n=77)	61.0	39.0
	作業療法学科(n=79)	60.8	39.2
学年別	1 年生(n=89)	80.9	19.1
	2 年生(n=74)	63.5	36.5
	3 年生(n=80)	51.2	48.8
	4 年生(n=89)	62.9	37.1
年度別	第 6 回 2023 年(n=226)	57.1	42.9
	第 7 回 2024 年(n=332)	65.1	34.9

8) アルバイトの時間 (1 週あたり)



表 10. アルバイトの時間：学科別・学年別・年度別 (%)

		していない	3 時間未満	3 時間以上-10 時間未満	10 時間以上
学科別	看護学科(n=176)	8.0	1.1	27.8	63.1
	理学療法学科(n=77)	15.6	2.6	24.7	57.1
	作業療法学科(n=79)	15.2	5.1	27.8	51.9
学年別	1 年生(n=89)	18.0	2.2	39.3	40.4
	2 年生(n=74)	9.5	1.4	25.7	63.5
	3 年生(n=80)	7.5	2.5	13.8	76.3
	4 年生(n=89)	10.1	3.4	28.1	58.4
年度別	第 3 回 2013 年(n=295)	22.7	-	-	-
	第 4 回 2016 年(n=349)	15.2	-	-	-
	第 5 回 2021 年(n=220)	16.4	-	-	-
	第 6 回 2023 年(n=225)	7.9	4.4	25.1	62.6
	第 7 回 2024 年(n=332)	11.4	2.4	27.1	59.0

9) アルバイトで得たこと (複数回答) (活動者のみ)

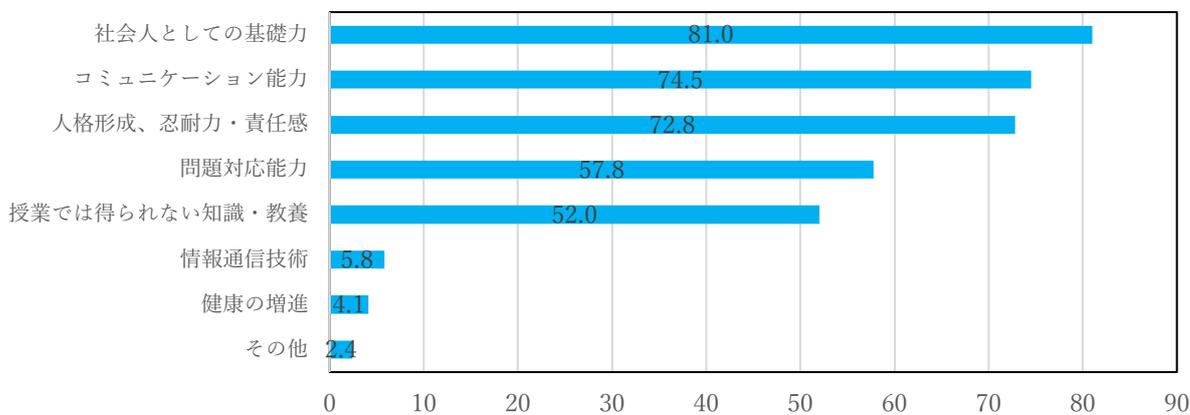


図9.活動者における% (n=294)

表 11. アルバイトで得たこと：学科別・学年別・年度別 (%)

		社会人としての基礎力	コミュニケーション能力	人格形成、忍耐力・責任感	問題対応能力	授業では得られない知識・教養	情報通信技術	健康の増進	その他
学科別	看護学科(n=162)	85.2	77.2	74.7	59.9	56.8	5.6	3.7	1.9
	理学療法学科(n=65)	78.5	73.8	63.1	58.5	43.1	4.6	3.1	6.2
	作業療法学科(n=67)	73.1	68.7	77.6	52.2	49.3	7.5	6.0	0.0
学年別	1 年生(n=73)	82.2	74.0	82.2	63.0	50.7	6.8	1.4	1.4
	2 年生(n=67)	76.1	70.1	74.6	52.2	47.8	9.0	4.5	0.0
	3 年生(n=74)	86.5	74.3	58.1	58.1	59.5	2.7	5.4	5.4
	4 年生(n=80)	78.8	78.8	76.3	57.5	50.0	5.0	5.0	2.5
年度別	第 6 回 2023 年(n=209)	72.2	72.2	62.2	62.2	54.5	2.4	4.3	2.9
	第 7 回 2024 年(n=332)	81.0	74.5	72.8	57.8	52.0	5.8	4.1	2.4

10) PC・スマホ・タブレット等で他者とコミュニケーションに費やした時間（1日あたり：大学の講義でを使用した時間は除く）

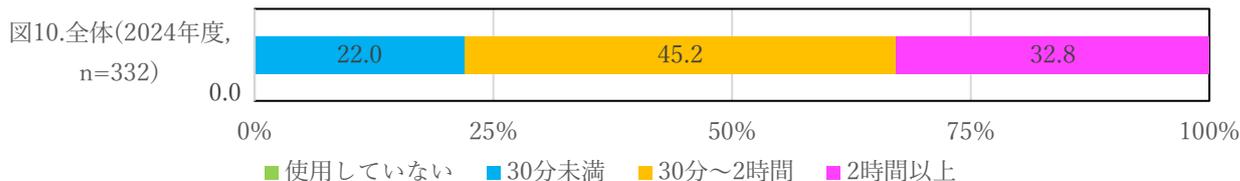


表 12. PC・スマホ・タブレット等で他者とコミュニケーションに費やした時間：学科別・学年別・年度別 (%)

		使用していない	30分未満	30分～2時間	2時間以上
学科別	看護学科(n=176)	0.0	19.9	45.5	34.7
	理学療法学科(n=77)	0.0	26.0	46.8	27.3
	作業療法学科(n=79)	0.0	22.8	43.0	34.2
学年別	1年生(n=89)	0.0	27.0	42.7	30.3
	2年生(n=74)	0.0	23.0	47.3	29.7
	3年生(n=80)	0.0	20.0	41.3	38.8
	4年生(n=89)	0.0	18.0	49.4	32.9
年度別	第6回 2023年(n=227)	0.4	24.2	42.7	32.6
	第7回 2024年(n=332)	0.0	22.0	45.2	32.8

11) YouTube、X (旧 Twitter)、Instagram 等の閲覧に費やした時間（1日あたり）



表 13. YouTube、X (旧 Twitter)、Instagram 等の閲覧に費やした時間：学科別・学年別・年度別 (%)

		1時間未満	1時間～3時間	3時間～5時間	5時間以上
学科別	看護学科(n=176)	5.1	55.7	33.0	6.3
	理学療法学科(n=77)	9.1	62.3	26.0	2.6
	作業療法学科(n=78)	9.0	55.1	23.1	12.8
学年別	1年生(n=89)	11.2	65.2	21.3	2.2
	2年生(n=73)	4.1	42.5	41.1	12.3
	3年生(n=80)	6.3	61.3	25.0	7.5
	4年生(n=89)	5.6	57.3	30.3	6.7
年度別	第5回 2021年(n=220)*	12.6	56.0	24.1	15.4
	第6回 2023年(n=227)	9.2	53.8	29.2	7.7
	第7回 2024年(n=332)	6.9	57.1	29.0	6.9

*1日のインターネット利用時間（検索・サーフィン・動画視聴）

12) 読書（マンガ・一般雑誌を除く）に費やした時間（1日あたり）



表 14. 読書（マンガ・一般雑誌を除く）に費やした時間：学科別・学年別・年度別 (%)

		していない	30分未満	30分～2時間	2時間以上
学科別	看護学科(n=175)	64.0	25.1	9.1	1.7
	理学療法学科(n=77)	64.9	22.1	9.1	3.9
	作業療法学科(n=79)	70.9	20.3	8.9	0.0
学年別	1年生(n=89)	66.3	24.7	6.7	2.2
	2年生(n=74)	66.2	27.0	6.8	0.0
	3年生(n=80)	70.0	18.8	10.0	1.3
	4年生(n=88)	61.4	22.7	12.5	3.4
年度別	第6回 2023年(n=227)	59.5	26.9	11.9	1.8
	第7回 2024年(n=331)	65.9	23.3	9.1	1.8

13) ボランティア活動（この1年間）

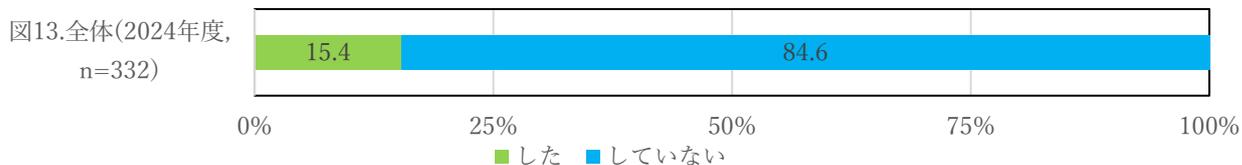


表 15. ボランティア活動：学科別・学年別・年度 (%)

		した	していない
学科別	看護学科(n=176)	15.3	84.7
	理学療法学科(n=77)	10.4	89.6
	作業療法学科(n=79)	20.3	79.7
学年別	1年生(n=89)	16.9	83.1
	2年生(n=74)	16.2	83.8
	3年生(n=80)	10.0	90.0
	4年生(n=89)	18.0	82.0
年度別	第4回 2016年(n=349)	6.0	94.0
	第5回 2021年(n=220)	3.8	96.2
	第6回 2023年(n=227)	10.6	89.4
	第7回 2024年(n=332)	15.4	84.6

14) 友人の人数（学内外問わない）

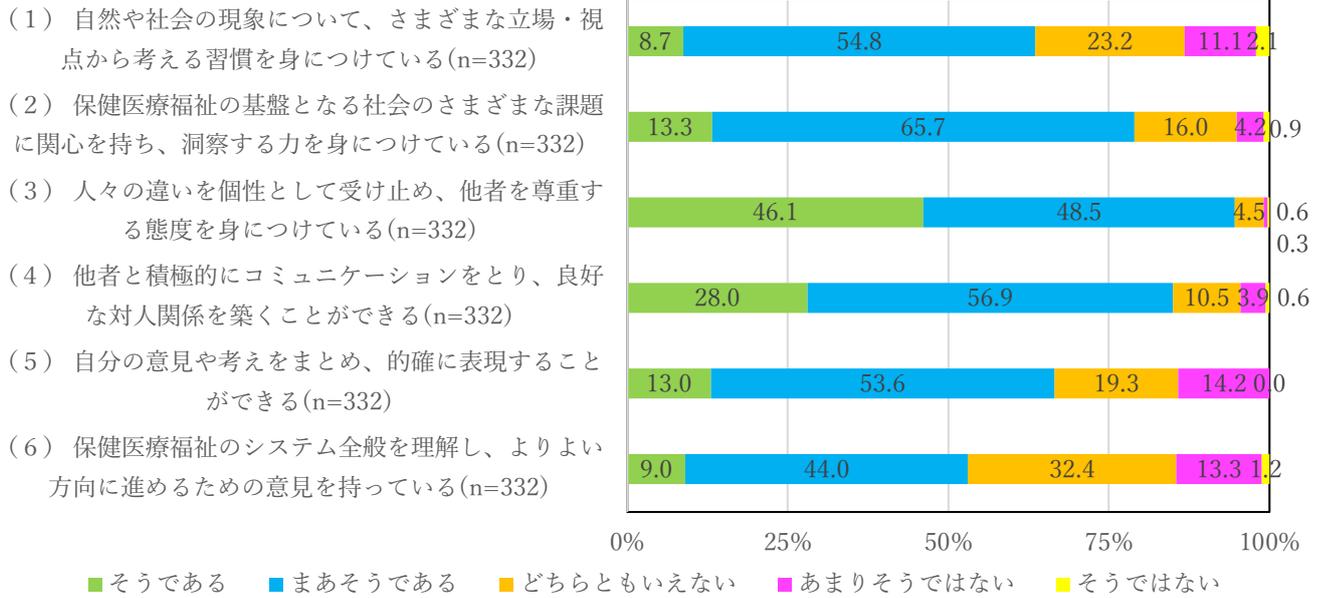


表 16. 友人の人数：学科別・学年別・年度別 (%)

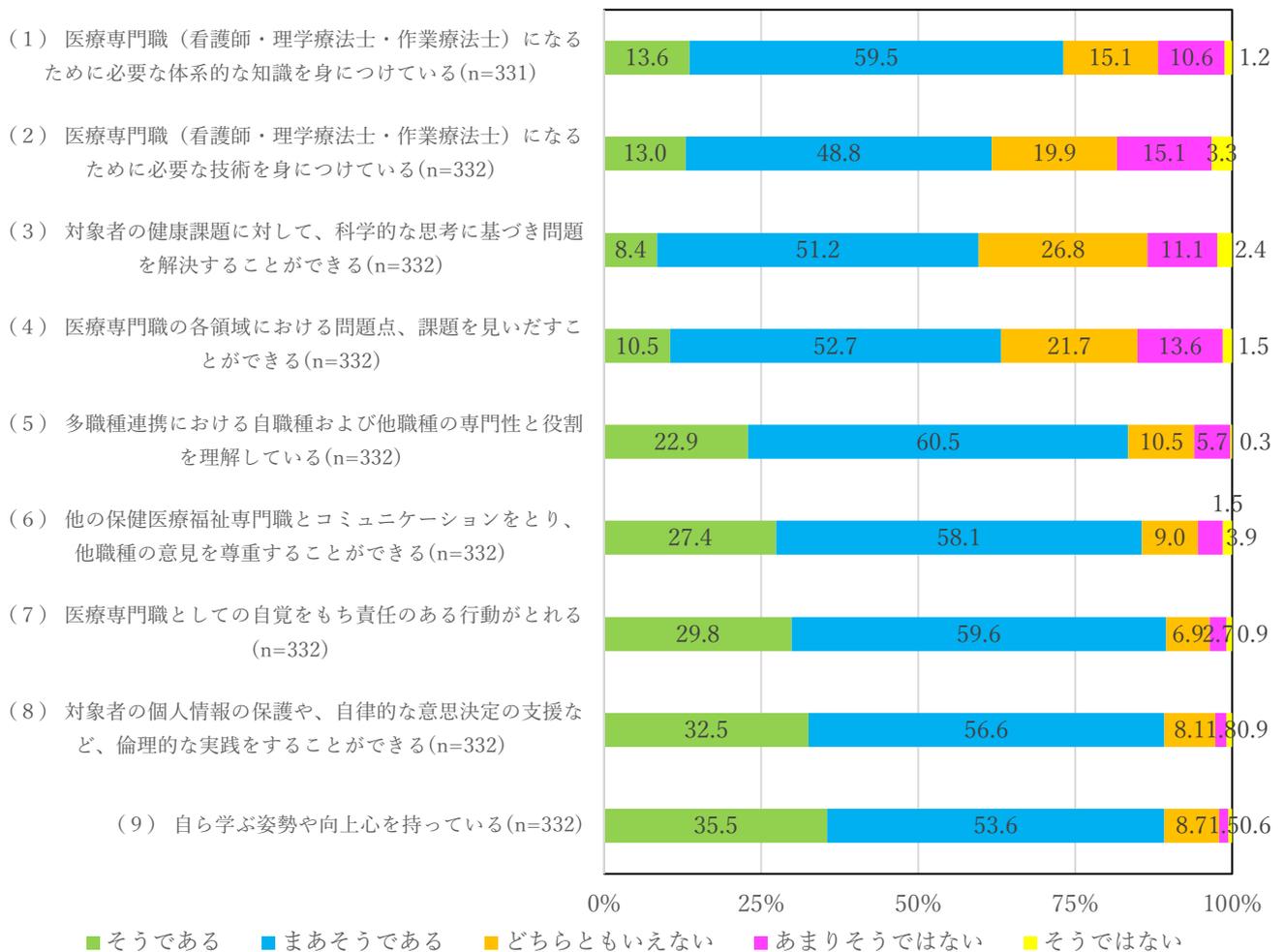
		大勢いる	まあまあいる	少しはいる	ほとんどいない
学科別	看護学科(n=176)	11.4	67.6	19.3	1.7
	理学療法学科(n=77)	14.3	68.6	14.3	2.6
	作業療法学科(n=79)	12.7	63.3	24.1	0.0
学年別	1年生(n=89)	15.7	67.4	16.9	0.0
	2年生(n=74)	12.2	70.3	17.6	0.0
	3年生(n=80)	10.0	67.5	20.0	2.5
	4年生(n=89)	11.2	62.9	22.5	3.4
年度別	第3回 2013年(n=291)	18.2	66.0	14.4	2.1
	第4回 2016年(n=349)	11.2	64.2	22.9	1.7
	第5回 2021年(n=220)	8.4	64.5	25.2	1.9
	第6回 2023年(n=227)	13.2	59.0	27.3	0.4
	第7回 2024年(n=227)	12.3	66.9	19.3	1.5

3. 学業の成果（卒業時まで身に付けたい能力の獲得状況）

1) 建学の精神を実現するための基盤となる能力(図 15)



2) 保健・医療・福祉の実践を担う専門職、専門分野の発展に寄与する能力(図 16)



3) 建学の精神を実現するための基盤となる能力：学科・学年別・年度別平均点(表 17)

*範囲 1～5 (1:そうではない, 2:あまりそうではない, 3:どちらともいえない, 4:まあそうである, 5:そうである)

	全体		学科別			学年別				参考値	
	2024	2023	看護 学科	理学 療法 学科	作業 療法 学科	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	卒業生 調査 (2023)	雇用者 調査 (2023)
(1)自然や社会の現象について、さまざまな立場・視点から考える習慣を身につけている	3.57	3.41	3.69	3.55	3.32	3.64	3.69	3.67	3.30	3.86	3.76
(2)保健医療福祉の基盤となる社会のさまざまな課題に関心を持ち、洞察する力を身につけている	3.86	3.66	3.95	3.75	3.76	3.91	3.89	4.04	3.63	-	-
(3)人々の違いを個性として受け止め、他者を尊重する態度を身につけている	4.39	4.38	4.46	4.34	4.30	4.46	4.43	4.38	4.31	4.38	4.23
(4)他者と積極的にコミュニケーションをとり、良好な対人関係を築くことができる	4.08	4.07	4.19	3.88	4.01	4.02	4.11	4.17	4.02	-	-
(5)自分の意見や考えをまとめ、的確に表現することができる	3.65	3.60	3.73	3.60	3.53	3.58	3.74	3.81	3.51	-	-
(6)保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見を持っている	3.46	3.32	3.55	3.32	3.42	3.46	3.46	3.63	3.33	3.45	3.24

4) 保健・医療・福祉の実践を担う専門職、専門分野の発展に寄与する能力：学科・学年別・年度別平均点(表 18) *範囲 1～5 (1:そうではない, 2:あまりそうではない, 3:どちらともいえない, 4:まあそうである, 5:そうである)

	全体		学科別			学年別				参考値	
	2024	2023	看護 学科	理学 療法 学科	作業 療法 学科	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	卒業生 調査 (2023)	雇用者 調査 (2023)
(1)医療専門職(看護師・理学療法士・作業療法士)になるために必要な体系的な知識を身につけている	3.74	3.74	3.95	3.55	3.44	3.52	3.80	3.85	3.81	4.14	4.00
(2)医療専門職(看護師・理学療法士・作業療法士)になるために必要な技術を身につけている	3.53	3.51	3.81	3.27	3.15	3.15	3.68	3.73	3.62	3.93	3.70
(3)対象者の健康課題に対して、科学的な思考に基づき問題を解決することができる	3.52	3.58	3.69	3.38	3.28	3.22	3.47	3.65	3.74	3.93	3.82
(4)医療専門職の各領域における問題点、課題を見いだすことができる	3.57	3.58	3.78	3.25	3.42	3.29	3.49	3.79	3.73	4.07	3.73
(5)多職種連携における自職種および他職種の専門性と役割を理解している	4.00	4.02	4.07	3.90	3.95	3.79	4.05	4.20	3.99	-	-
(6)他の保健医療福祉専門職とコミュニケーションをとり、他職種の意見を尊重することができる	4.06	4.11	4.14	3.99	3.95	3.87	3.96	4.29	4.13	4.35	3.96
(7)医療専門職としての自覚をもち責任のある行動がとれる	4.15	4.10	4.26	4.10	3.95	3.99	4.19	4.28	4.16	4.43	4.20
(8)対象者の個人情報保護や、自律的な意思決定の支援など、倫理的な実践をすることができる	4.18	4.24	4.19	4.21	4.13	3.99	4.16	4.35	4.24	-	-
(9)自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている	4.22	4.10	4.31	4.21	4.03	4.27	4.26	4.28	4.09	4.31	4.38

4. 悩みや不安、経済的な課題

1) 現在の悩みや不安



表 19. 現在の悩みや不安友人の人数：学科別・学年別・年度別 (%)

		たくさんある	まあまあある	少しはある	ほとんどない	全くない
学科別	看護学科(n=176)	5.1	25.6	25.0	37.5	6.8
	理学療法学科(n=77)	1.3	22.1	31.2	33.8	11.7
	作業療法学科(n=79)	8.9	19.0	17.7	43.0	11.4
学年別	1年生(n=89)	2.2	24.7	27.0	36.0	10.1
	2年生(n=74)	2.7	20.3	25.7	39.2	12.2
	3年生(n=80)	7.5	17.5	27.5	40.0	7.5
	4年生(n=89)	7.9	29.2	19.1	37.1	6.7
年度別	第3回 2013年(n=291)	13.3	45.1	33.8	7.8	
	第4回 2016年(n=349)	8.8	30.7	42.8	17.7	
	第6回 2023年(n=226)	8.3	31.1	26.3	29.4	4.8
	第7回 2024年(n=332)	5.1	23.2	24.7	38.0	9.0

2) 悩みや不安の内容（複数回答）（悩み・不安がある者のみ）

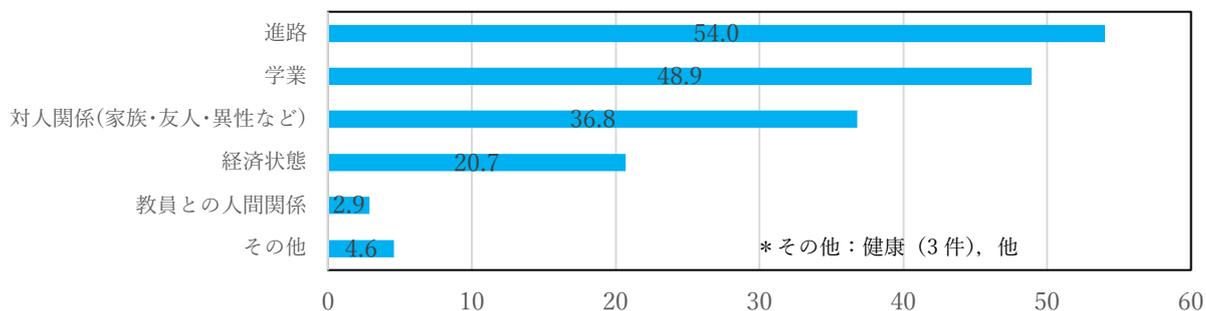


図18.悩み・不安がある者における% (n=174)

表 20. 悩みや不安の内容：学科別・学年別・年度別 (%)

		進路	学業	対人関係(家族・友人・異性など)	経済状態	教員との人間関係	その他
学科別	看護学科(n=97)	51.5	47.4	41.2	21.6	3.1	3.1
	理学療法学科(n=41)	61.0	43.9	26.8	19.5	2.4	9.8
	作業療法学科(n=36)	52.8	58.3	36.1	19.4	2.8	2.8
学年別	1年生(n=45)	34.0	59.6	36.2	17.0	0.0	8.5
	2年生(n=45)	48.6	37.1	51.4	17.1	5.7	5.7
	3年生(n=53)	78.6	38.1	38.1	23.8	2.4	0.0
	4年生(n=51)	56.0	56.0	26.0	24.0	4.0	4.0
年度別	第3回 2013年(n=253)	60.4	56.5	42.2	39.1	3.0	3.9
	第4回 2016年(n=319)	31.1	40.9	25.3	11.8	0.0	1.0
	第5回 2021年(n=211)	61.2	64.1	31.1	30.1	2.4	8.3
	第6回 2023年(n=147)	50.3	44.3	31.5	19.5	2.0	2.7
	第7回 2024年(n=174)	54.0	48.9	36.8	20.7	2.9	4.6

3) 悩みや不安への対処（悩み・不安がある者のみ）

図19.全体(2024年度,
n=176)

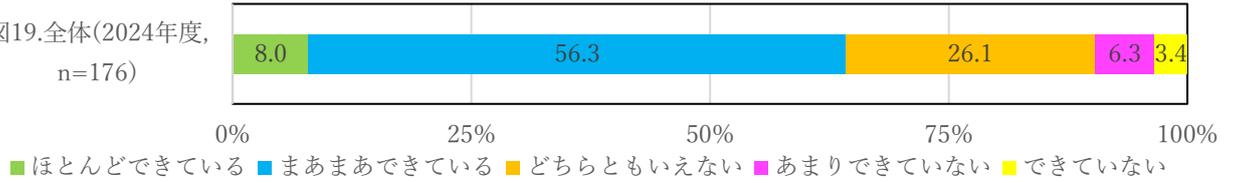


表 21. 悩みや不安への対処：学科別・学年別・年度 (%)

		ほとんどできている	まあまあできている	どちらともいえない	あまりできていない	できていない
学科別	看護学科(n=98)	9.2	60.2	21.4	6.1	3.1
	理学療法学科(n=42)	9.5	50.0	35.7	4.8	0.0
	作業療法学科(n=36)	2.8	52.8	27.8	8.3	8.3
学年別	1年生(n=48)	4.2	52.1	31.3	8.3	4.2
	2年生(n=36)	16.7	52.8	19.4	8.3	2.8
	3年生(n=42)	9.5	47.6	31.0	9.5	2.4
	4年生(n=50)	4.0	70.0	22.0	0.0	4.0
年度別	第3回 2013年(n=291)	9.5	57.7	26.1	6.7	
	第4回 2016年(n=349)	11.4	46.9	35.5	6.2	
	第5回 2021年(n=211)	9.0	49.5	32.9	8.6	
	第6回 2023年(n=146)	8.8	52.0	28.4	10.1	0.7
	第7回 2024年(n=176)	8.0	56.3	26.1	6.3	3.4

4) 悩みや不安の相談相手（複数回答）（悩み・不安がある者のみ）

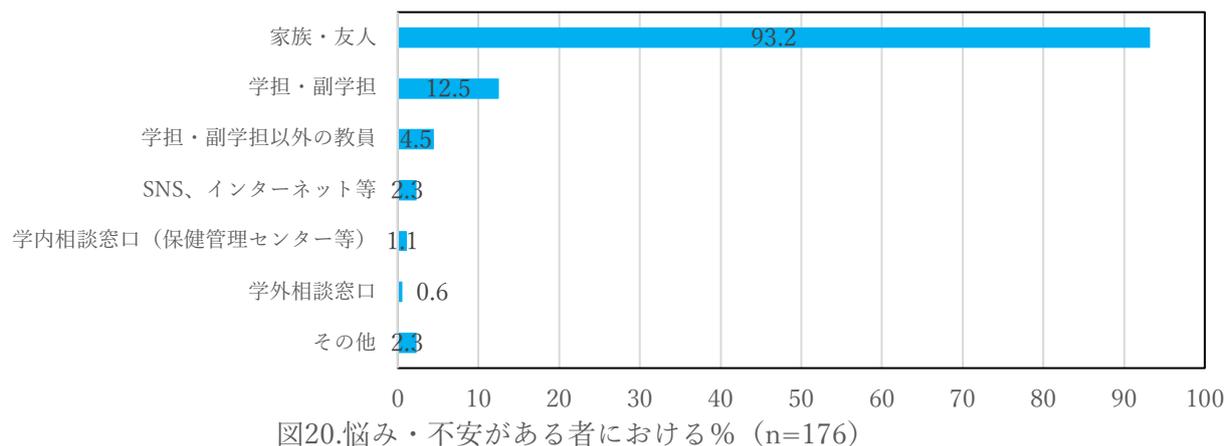


表 22. 悩みや不安の相談相手：学科別・学年別・年度別 (%)

		家族・友人	学担・副学担	学担・副学担以外の教員	SNS、インターネット等	学内相談窓口（保健管理センター等）	学外相談窓口	その他
学科別	看護学科(n=98)	98.0	8.2	4.1	2.0	1.0	0.0	1.0
	理学療法学科(n=42)	83.3	14.3	7.1	2.4	0.0	0.0	7.1
	作業療法学科(n=36)	91.7	22.2	2.8	2.8	2.8	2.8	0.0
学年別	1年生(n=44)	97.9	8.3	2.1	2.0	2.1	2.1	2.1
	2年生(n=44)	94.4	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3年生(n=51)	92.9	23.8	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4
	4年生(n=50)	88.0	12.0	14.0	6.0	2.0	0.0	4.0
年度別	第5回 2021年(n=220)	66.8(家族) 81.0(友人)	14.7	7.1	-	0.4	-	-
	第6回 2023年(n=145)	93.1	7.6	6.2	4.8	4.1	0.7	3.4
	第7回 2024年(n=176)	93.2	12.5	4.5	2.3	1.1	0.6	2.3

5) 授業料、生活費の支弁者（最も負担額が大きい者）



表 23. 授業料、生活費の支弁者：学科別・学年別・年度別 (%)

		親・親族	自分自身（奨学金を含む）	全額免除されている
学科別	看護学科(n=176)	88.6	9.1	2.3
	理学療法学科(n=76)	90.8	5.3	3.9
	作業療法学科(n=79)	86.1	11.4	2.5
学年別	1年生(n=89)	89.9	7.9	2.2
	2年生(n=74)	94.6	4.1	1.4
	3年生(n=80)	85.0	12.5	2.5
	4年生(n=88)	85.2	10.2	4.5
年度別	第6回 2023年(n=228)	87.7	9.2	3.1
	第7回 2024年(n=331)	88.5	8.8	2.7

6) 奨学金の受給

図22.全体(2024年度,
n=332)

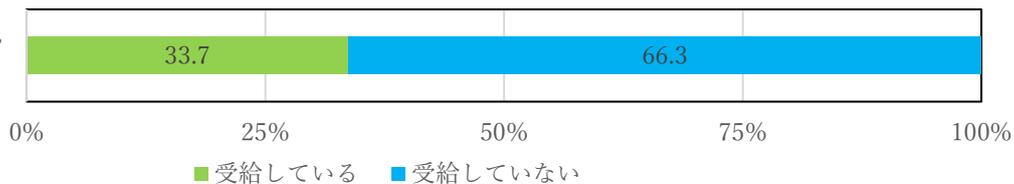


表 24. 奨学金の受給：学科別・学年別・年度別 (%)

		受給している	受給していない
学科別	看護学科(n=176)	35.8	64.2
	理学療法学科(n=77)	19.5	80.5
	作業療法学科(n=79)	43.0	57.0
学年別	1年生(n=89)	31.5	68.5
	2年生(n=74)	24.3	75.7
	3年生(n=80)	41.3	58.8
	4年生(n=89)	37.1	62.9
年度別	第3回 2013年(n=295)	37.7	62.3
	第4回 2016年(n=349)	47.0	53.0
	第5回 2021年(n=220)	38.1	61.9
	第6回 2023年(n=228)	38.6	61.4
	第7回 2024年(n=332)	33.7	66.3

7) 学業を続けていく上での経済的な不安

図23.全体(2024年度,
n=332)

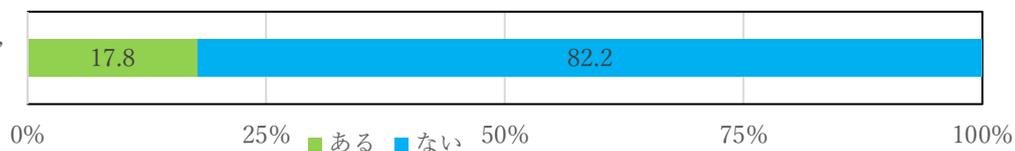


表 25. 学業を続けていく上での経済的な不安：学科別・学年別・年度別 (%)

		ある	ない
学科別	看護学科(n=176)	14.2	85.8
	理学療法学科(n=77)	22.1	77.9
	作業療法学科(n=79)	21.5	78.5
学年別	1年生(n=89)	14.6	85.4
	2年生(n=74)	18.9	81.1
	3年生(n=80)	20.0	80.0
	4年生(n=89)	18.0	82.0
年度別	第6回 2023年(n=228)	19.7	80.3
	第7回 2024年(n=332)	17.5	82.2

5. 支援制度の利用状況

1) 学生担当教員（学担・副学担）制度の認知



表 26. 学生担当教員（学担・副学担）制度の認知：学科別・学年別・年度別 (%)

		良く知っている	聞いたことはある	知らない
学科別	看護学科(n=176)	67.0	19.9	13.1
	理学療法学科(n=77)	70.1	16.9	13.0
	作業療法学科(n=79)	67.1	22.8	10.1
学年別	1年生(n=89)	50.6	30.3	19.1
	2年生(n=74)	66.2	17.6	16.2
	3年生(n=80)	80.0	11.3	8.8
	4年生(n=89)	75.3	19.1	5.6
年度別	第3回 2013年(n=291)	51.4	38.7	9.9
	第4回 2016年(n=349)	26.9	40.5	32.7
	第5回 2021年(n=220)	64.6	31.6	3.8
	第6回 2023年(n=225)	75.8	14.1	10.1
	第7回 2024年(n=332)	67.8	19.9	12.3

2) 保健管理センターの認知

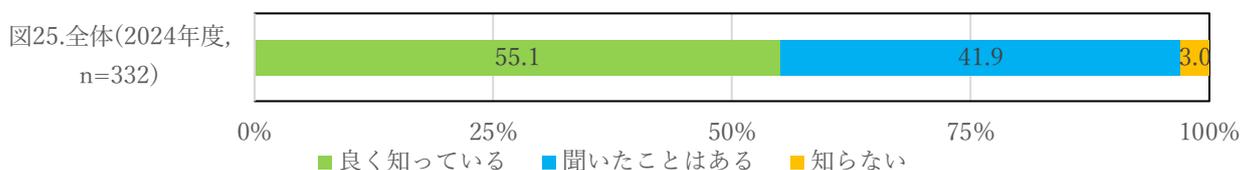


表 27. 保健管理センターの認知：学科別・学年別・年度別 (%)

		良く知っている	聞いたことはある	知らない
学科別	看護学科(n=176)	56.8	41.5	1.7
	理学療法学科(n=77)	58.4	37.7	3.9
	作業療法学科(n=79)	48.1	46.8	5.1
学年別	1年生(n=89)	41.6	53.9	4.5
	2年生(n=74)	56.8	39.2	4.1
	3年生(n=80)	65.0	31.3	3.8
	4年生(n=89)	58.4	41.6	0.0
年度別	第3回 2013年(n=291)	8.6	33.8	57.6
	第4回 2016年(n=349)	14.7	52.6	32.7
	第5回 2021年(n=220)	73.9	25.2	0.9
	第6回 2023年(n=227)	69.2	30.0	0.9
	第7回 2024年(n=332)	55.1	41.9	3.0

3) ハラスメント相談窓口の認知

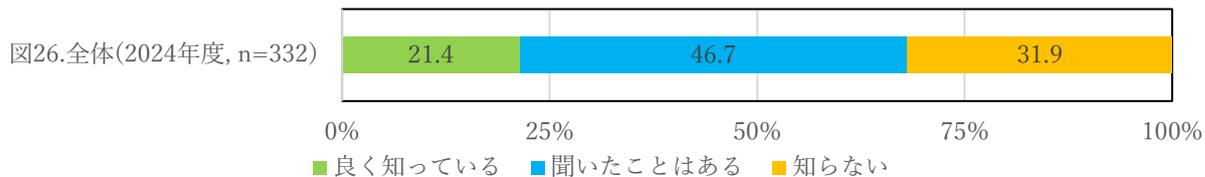


表 28. ハラスメント相談窓口の認知：学科別・学年別 (%)

		良く知っている	聞いたことはある	知らない
学科別	看護学科(n=176)	21.6	43.8	34.7
	理学療法学科(n=77)	19.5	51.9	28.6
	作業療法学科(n=79)	22.8	48.1	29.1
学年別	1年生(n=89)	22.5	46.1	31.5
	2年生(n=74)	13.5	40.5	45.9
	3年生(n=80)	23.8	46.3	30.0
	4年生(n=89)	24.7	52.8	22.8
年度別	第3回 2013年(n=291)	4.8	35.9	59.3
	第4回 2016年(n=349)	6.4	51.3	42.3
	第5回 2021年(n=220)	19.7	32.1	48.2
	第6回 2023年(n=228)	20.6	45.6	33.8
	第7回 2024年(n=332)	21.4	46.7	31.9

6. 今後学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容（複数回答）

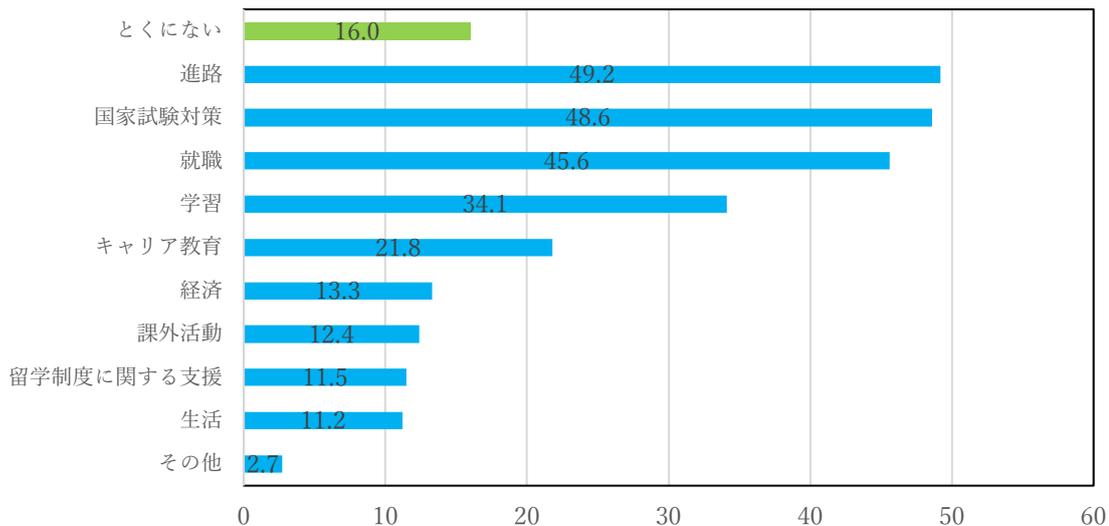


図27.全体における% (n=331)

* その他：サークル等の整備 (EV の修理), 学務課のサポート,他

表 29. 今後学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容：学科別・学年別・年度別

(%)

		とくにない	進路	国家試験対策	就職	学習	キャリア教育	経済	課外活動	留学制度に関する支援	生活	その他
学科別	看護学科 (n=175)	14.3	47.4	50.3	46.9	34.9	22.3	14.9	9.1	13.7	12.0	3.4
	理学療法学科 (n=77)	14.3	58.4	44.2	40.3	36.4	24.7	11.7	14.3	14.3	9.1	3.9
	作業療法学科 (n=79)	21.5	44.3	49.4	48.1	30.4	17.7	11.4	17.7	3.8	11.4	0.0
学年別	1年生 (n=89)	19.1	48.3	51.7	36.0	42.7	12.4	18.0	16.9	14.6	13.5	2.2
	2年生 (n=74)	20.3	35.1	41.9	37.8	28.4	12.2	9.5	6.8	10.8	9.5	2.7
	3年生 (n=80)	11.3	61.3	56.3	57.5	37.5	38.8	13.8	12.5	11.3	15.0	1.3
	4年生 (n=88)	13.6	51.1	44.3	51.1	27.3	23.9	11.4	12.5	9.1	6.8	4.5
年度別	第3回 2013年 (n=291)	7.6	50.2	49.1	39.5	39.4	11.0	15.8	10.0	8.6	11.0	-
	第5回 2021年 (n=220)	8.2	49.5	43.2	44.1	39.5	19.5	25.9	18.2	10.5	16.8	-
	第6回 2023年 (n=228)	11.0	47.8	44.7	43.4	28.1	22.4	14.0	16.7	11.4	15.4	2.2
	第7回 2024年 (n=332)	16.0	49.2	48.6	45.6	34.1	21.8	13.3	12.4	11.5	11.2	2.7

VI. 資料

1. 依頼文書

在学生各位

令和 6 年 7 月 1 日

札幌医科大学保健医療学部のディプロマポリシーに基づく学修成果の評価および
生活実態に関する調査 ご協力をお願い

北海道公立大学法人 札幌医科大学
保健医療学部 学部長 片寄 正樹
医療人育成センター・統合 IR 部門長 辻 喜久

保健医療学部では、本学で行われている教育の学修成果を総合的に評価することを目的に、在学生、卒業生、および雇用者の方々に対する調査を行っています。この結果をもとに、教育内容の一層の充実を図りたく、調査への協力をお願いいたします。

1. 調査の目的

2020（令和 2）年度カリキュラム及び、現行の保健医療学部ディプロマポリシー（以下 DP とする）のもとで教育を受けている在学生を対象とした調査を行い、在学生の DP の到達度及び生活実態を明らかにします。また、卒業生や卒業生が勤務する施設・自治体・企業を対象に同様の調査を行い、多角的に DP の到達度を評価することにより、現在のカリキュラムの評価及び次期カリキュラム改定に活用します。

2. 対象者

在学生：2021 年度～2024 年度に保健医療学部に入學した 1～4 年生約 360 名

3. 倫理的配慮

- 1) 調査協力への同意：本調査票の提出をもって、調査への同意とみなします。
- 2) 同意しない場合の不利益：調査協力は任意であり、協力しなくても不利益はありません。
- 3) プライバシー保護：調査は記名式（学籍番号の記入）、4 年生は無記名式で行われます。データは統計的に処理され、個人のデータが公開されることはありません。回答は、統合 IR 部門が管理するインターネットに接続しない PC またはハードディスクに保管され、厳重に管理します。
- 4) 調査結果の公表：調査結果は全学、学部、医療人育成センターの会議を通じて関係者に報告します。
- 5) 予期される危険と費用負担：回答は 15 分程度の時間を要します。費用負担はありません。

4. 調査期間：2024 年 7 月 1 日～2024 年 8 月 30 日

5. 調査方法

記入後、密封の上、担当者に提出してください。

<問合せ先>

本調査につきご不明な点は、保健医療学部統合 IR 部門連携ワーキンググループの教員へお尋ねください。調査の趣旨をご理解の上、ご協力のほどお願いいたします。

札幌医科大学保健医療学部 統合 IR 部門連携ワーキンググループ

e-mail: iir-desk@sapmed.ac.jp（日中・夜間）

電話：代表 011-611-2111（日中）

担当：山本 武志（看護学科：内線 23780）

横山 和樹（作業療法学科：内線 28870）

深川 周平（看護学科：内線 28670）

根木 亨（理学療法学科：内線 29150）

2. 調査票

札幌医科大学保健医療学部のディプロマポリシーに基づく学修成果の評価および 生活実態に関する調査

この調査では学部学生の基本属性と生活状況、学業の成果、学生支援のニーズ及びその利用状況について調査を行い、より効果的な学生支援につなげるための基礎資料を作成することを目的とします。是非ともご協力をお願いします。結果は調査の目的以外には使用いたしません。ありのままをご回答下さい。

<各設問について該当する番号をチェックしてください>

I. 基本属性と生活状況（あなたのことについて教えてください）

(1) あなたの学籍番号をお答えください

学籍番号 _____

*回答いただいた情報は、入学時に同意いただいた「教育プログラム改善のための継続的教学情報収集」の方針に基づいて管理し、集合データとして活用されます。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

(2) 居住形態

1. 自宅（家族等と同居） 2. 下宿、アパート、学生寮など

(3) 通学時間（片道）

1. 15分未満 2. 15分以上～30分未満 3. 30分以上～1時間未満 4. 1時間以上

(4) 加入している部活動・サークル（複数回答可）

1. 運動系(本学) 2. 文化系(本学) 3. 運動系(他大学/イカ) 4. 文化系(他大学/イカ)
5. 加入していない（→(7)へおすすみください）

(5) 部活動・サークル活動への参加頻度は1週あたりどのくらいですか

1. 週1回 2. 週2回 3. 週3回 4. 週4回 5. 週5回以上

(6) 部活動・サークル活動でどのようなことを得られましたか（複数回答可）

1. 人格形成、忍耐力・責任感 2. 授業では得られない知識・教養 3. 社会人としての基礎力
4. 問題対応能力 5. コミュニケーション能力 6. 情報通信技術 7. 健康の増進
8. その他（ ）

(7) 平日の平均睡眠時間

1. 5時間未満 2. 5時間以上6時間未満 3. 6時間以上7時間未満
4. 7時間以上8時間未満 5. 8時間以上

- (8) 食事はどのようにしていますか (最も頻度が高いものを選んでください)
1. 三食きちんと食べている
 2. 三食は食べないことが多い
- (9) アルバイトをした時間は1週あたりどのくらいですか
1. していない
 2. 3時間未満
 3. 3時間以上～10時間未満
 4. 10時間以上
- (10) アルバイトでどのようなことを得られましたか (している方のみ回答ください。複数可。)
1. 人格形成、忍耐力・責任感
 2. 授業では得られない知識・教養
 3. 社会人としての基礎力
 4. 問題対応能力
 5. コミュニケーション能力
 6. 情報通信技術
 7. 健康の増進
 8. その他 ()
- (11) PC・スマホ・タブレット等で他者とコミュニケーションに費やした時間は1日あたりどのくらいですか (但し、大学の講義で使用した時間は除く)
1. 使用していない
 2. 30分未満
 3. 30分以上～2時間未満
 4. 2時間以上
- (12) YouTube、X (旧 Twitter)、Instagram、TikTok 等の閲覧に費やした時間は1日あたりどのくらいですか
1. 1時間未満
 2. 1時間以上3時間未満
 3. 3時間以上5時間未満
 4. 5時間以上
- (13) 読書 (マンガ・一般雑誌を除く) に費やした時間は1日あたりどのくらいですか
1. していない
 2. 30分未満
 3. 30分以上～2時間未満
 4. 2時間以上
- (14) この1年間に、ボランティア活動をしましたか
1. した
 2. していない
- (15) 友人はどのくらいいますか (学内外問いません)
1. 大勢いる
 2. まあまあいる
 3. 少しはいる
 4. ほとんどいない

II. 学業の成果 (卒業時まで身に付けたい能力をどの程度まで獲得できているか)

【1】建学の精神を実現するための基盤となる能力

- (16) 自然や社会の現象について、さまざまな立場・視点から考える習慣を身につけている
1. そうではない
 2. あまりそうではない
 3. どちらともいえない
 4. まあそうである
 5. そうである
- (17) 保健医療福祉の基盤となる社会のさまざまな課題に関心を持ち、洞察する力を身につけている
1. そうではない
 2. あまりそうではない
 3. どちらともいえない
 4. まあそうである
 5. そうである
- (18) 人々の違いを個性として受け止め、他者を尊重する態度を身につけている
1. そうではない
 2. あまりそうではない
 3. どちらともいえない
 4. まあそうである
 5. そうである

(19) 他者と積極的にコミュニケーションをとり、良好な対人関係を築くことができる
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである

(20) 自分の意見や考えをまとめ、的確に表現することができる
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである

(21) 保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見を持っている
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである

【2】保健・医療・福祉の実践を担う専門職、専門分野の発展に寄与する能力

(22) 医療専門職（看護師・理学療法士・作業療法士）になるために必要な体系的な知識を身につけている
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである

(23) 医療専門職（看護師・理学療法士・作業療法士）になるために必要な技術を身につけている
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである

(24) 対象者の健康課題に対して、科学的な思考に基づき問題を解決することができる
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである

(25) 医療専門職の各領域における問題点、課題を見いだすことができる
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである

(26) 多職種連携における自職種および他職種の専門性と役割を理解している
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである

(27) 他の保健医療福祉専門職とコミュニケーションをとり、他職種の意見を尊重することができる
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである

(28) 医療専門職としての自覚をもち責任のある行動がとれる
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである

(29) 対象者の個人情報の保護や、自律的な意思決定の支援など、倫理的な実践をすることができる
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである

(30) 自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである

Ⅲ. 悩みや不安、経済的な課題について（学生支援の必要性について聞かせてください。）

(31) 現在悩みや不安はありますか

1. たくさんある 2. まあまあある 3. 少しはある 4. ほとんどない 5. 全くない

→35へお進みください

(32) あなたの悩みや不安について最もあてはまるものを選んで下さい（ある方のみ回答ください）

1. 学業 2. 進路 3. 経済状態 4. 対人関係(家族・友人・異性など) 5. 教員との人間関係
6. その他（ ）

(33) 悩みや不安に対して自分なりに対処できていますか（ある方のみ回答ください）

1. ほとんど 2. まあまあ 3. どちらとも 4. あまり 5. できていない
できている できている いえない できていない

(34) 悩みや不安は誰に相談しますか？（ある方のみ回答ください。複数回答可。）

1. 家族・友人 2. 学担・副学担 3. 学担・副学担以外の教員 4. 学内相談窓口（保健管理センター等）
5. 学外相談窓口 6. SNS、インターネット等 7. その他（ ）

(35) 授業料、生活費の支弁者は誰ですか（最も負担額が大きい者）

1. 自分自身（奨学金を含む） 2. 親・親族 3. 全額免除されている 4. その他（ ）

(36) 奨学金の受給について

1. 受給している 2. 受給していない

(37) 学業を続けていく上での経済的な不安

1. ある 2. ない

Ⅳ. 支援制度の利用状況について（学生支援が十分提供されているのか聞かせてください。）

(38) 学生担当教員（学担・副学担）制度を知っていますか

1. 知らない 2. 聞いたことはある 3. 良く知っている

(39) 保健管理センターを知っていますか

1. 知らない 2. 聞いたことはある 3. 良く知っている

(40) 学部内にハラスメント相談窓口があることを知っていますか

1. 知らない 2. 聞いたことはある 3. 良く知っている

(41) あなたが今後学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容を選んで下さい（複数回答可）

1. とくにない 2. 学習 3. 進路 4. キャリア教育 5. 国家試験対策 6. 就職
7. 経済 8. 生活 9. 課外活動 10. 留学制度に関する支援 11. その他（ ）

ご協力ありがとうございました。